

歴史の窓「新発見！ 鳥取藩主分家・西館家臣の古文書全部みせます」開催要項

1 展示テーマ 新発見！ 鳥取藩主の分家・西館家臣の古文書全部みせます

2 趣旨

鳥取藩主池田家には、初代藩主光仲の子・仲澄の系統「東館（ひがしやかた）」（3万石）と清定の系統「西館（にしやかた）」（2万石）と呼ばれる2つの分家がありました。両家の当主とも大名として扱われましたが、実際には領地はなく本藩から米が給与される家でした。家政を主宰する家老も本藩から派遣された藩士が務めるなど、政治的にも独立性の低い家であったと言われていました。しかし、両家とも史料がほとんど残存していないため、その内実がよく分かっていません。

2021年、西館の家臣高橋家のご子孫（茨城県土浦市在住）から、同家9代栄蔵（義広）が作成・収集した約170点の史料の寄贈を受けました。調査を進めると、そのなかに新発見となる江戸中期から幕末の西館家臣団名簿を含む、西館関係資料が数多く含まれていることがわかりました。

本展では、新発見となる西館の家臣団名簿をはじめ、高橋栄蔵が関わった西館の業務関係資料のほか寄贈いただいた資料を全点展示します。

3 主催 鳥取県立博物館

4 主な展示品

- ・「御家中分限帳写」および「分限帳」（当館蔵） **新発見**

西館の家臣団名簿。元文5年（1740）分、宝暦6年（1756）分、文政5年（1822）分が収録されている。約280名の石高や役職など、西館の家臣団構造がわかる現存唯一のもの。

- ・「駿府城絵図」および「駿府城御加番代々記」（当館蔵）

万延元年（1860）9月～文久元年（1861）9月、西館当主の池田清緝が江戸幕府御用として駿府加番（駿府城の守衛を担当）に任じられた際の駿府城絵図および加番の記録。

- ・「日記抜萃」（当館蔵）

安政2年（1855）から明治32年（1899）まで、高橋家9代の栄蔵（義広）の公私にわたる日記。西館内での日々の出来事や明治以降の西館池田家との関係などが詳しく記される。

5 展示期間 令和4年8月30日（火）～令和4年11月6日（日）

6 会場 鳥取県立博物館 歴史・民俗展示室「歴史の窓」コーナー

7 入館料 常設展示観覧料180円（団体150円）

8 問い合わせ先

県立博物館学芸課 人文担当主任学芸員 大嶋 陽一
電話 0857-26-8044